

教育開発支援センターからのお知らせ

平成24年度「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に <「考動力」を育む学習環境「コラボレーションコモンズ」の構築>が採択されました

授業外の学習を支える学習環境の必要性を、6月発行のvol.09のニュースレターで記載しました。そのすぐ後、文部科学省から私立大学教育研究活性化設備整備事業の公募が出ました。提出締切まで1ヶ月ほどでしたが、教育推進部は凜風館1Fの学生ラウンジをコラボレーションコモンズとして開設する案で申請をしました。そして、10月末に採択が決まりました。タイトルは、「考動力」を育む学習環境「コラボレーションコモンズ」の構築（事業推進

責任者 岩崎千晶）です。コラボレーションコモンズには、これまで本学が採択された「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ～関西大学で育む21世紀型学生気質～」、「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」といった教育GPやボランティアセンターなど本学独自の取り組みを集結させ、学生同士のコラボレーションを誘発し、学生の考動力を育成することを目指しています。コラボレーションコモンズには、専門エリアとして、

グローバルエリア、ライティングエリアを設けます。これらのエリアには、学生スタッフを配置します。またピアエリア、ボランティアエリア、ラーニングエリア、ICTエリア、コラボレーションエリア、コモンズラウンジを設けます。授業だけではなく、課外活動においても積極的に活用していただければと思います。現在、来年4月の開設を目指して準備を進めています。詳しくは次号にて紹介させていただきます。

（教育推進部 岩崎千晶）

TAの経験を活かしたTAハンドブックを作成します

学生の教育力活用プロジェクトでは、これまでTA研修を実施してまいりました。TA研修では、TA同志が自らの活動をふりかえり、活動で困ったことや、課題をどう解決してきたのかを共有してきました。こうした研修を通じて、TAの知見を新たにTAとして

活躍する後輩に継承していく必要性があると考えました。そこで、TA経験が長く、協力をいただけた樋口隆太郎さん、松尾悠さん、アドバイザリースタッフの遠海友紀さんと学生の教育力活用プロジェクトのスタッフで、TAが抱えている課題とそれに対する解決策を紹

介するTAハンドブックを作成することになりました。ハンドブックではこのほかにも、TA活動の目的、TAの役割、規程等も記載します。来年度のTA研修の際に配付する予定です。ご期待ください。

（教育推進部 岩崎千晶）

From
CTL事務局

関西大学が持つて
いる最大のリソースと
は何だろうか。キャンパス、財政、教職員、
卒業生。確かにこれらは全て重要なリ
ソースではある。しかし、本学にとって
最大のリソースは「学生」ではないだろ
うか。一人ひとりの学生が持っている無
限とも言える可能性は大学にとって貴重
な資源である。現状を大きく変えうる独
創的なアイデアや発想、他者との協調・
連携によって生まれるパワフルな発揮能
力等々、数え上げればきりがない。

このようなポテンシャルを持つ学生た
ちが、キャンパスの中で営まれる様々な
教育活動の現場においてその力を發揮
し、活躍している姿を見ることが多いな
ど、CTLが関わる教育の現場に限
定してみても、TA、SA、LAとして学生
たちが授業改善の重要な実践者として
活躍している。さらに教育推進部にま
で範囲を広げて俯瞰してみると、障が
いを持った学生への修学支援を行うサ
ポーターの学生たち、全学共通教育に
おける科目提案学生委員の学生たちの

活躍にも目を見張るものがある。

従来、教育の改善はFDの言葉に表
わされるように、教員の自発的な研鑽と
弛まない努力によって実現されうるもの
と認識してきた。しかし、教育改善
の実現を教える側にのみ求めるのでは
なく、教育を享受する学生にも大いに
改善に向けた取り組みに参画してもら
うことを目指すべきと考える。また、本学
の学生たちはそれが十分にできる意欲
と能力を持っていると確信する。

（良）